

《樹木が自然樹形で育つ街》

■ [提案] 樹木で都市のヒートを削減する ■

都市は、樹木との新たな付き合い方と、新たなあり方を望んでいる。
従来行ってきた、樹木の生長を都合よく抑制管理してきたことが、
暑い都市に至った一つの要因と言えないのだろうか。
だとすれば、今までの逆に近い考えを実施すれば、
今の暑さは軽減される方向に向かうはずである。と、単純に思う前提が必要である。
そして、都市のヒート削減に、再度樹木に役割を課すのであるならば、
人間は樹木に任せる想いを抱きつつ、樹木の生命力を尊重し、
「生かす緑」と「見つめる緑」の考えを、造園的見地で構築することである。

※都市樹木とは都市に植栽する樹木を指す。特に交差点での植栽タイプをクロスツリーと呼ぶ。
その他のタイプには、学校でのスクールツリー、公共地のパブリックツリー、駅構内のステーションツリー
…がある。

■ [配置図例] クロスツリー ■

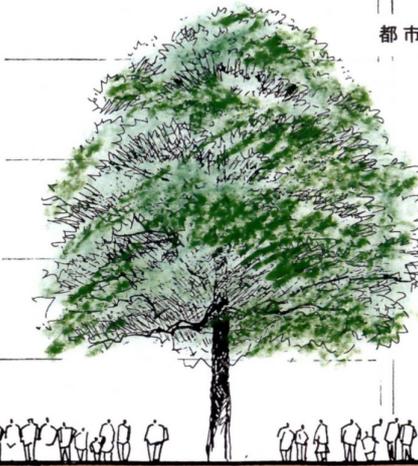


交差点にクロスツリーを配置

道路は緑で冷やした涼風を運ぶ風の道

■ [立面図] 都市樹木:クロスツリー ■

使用敷地面積: 20m × 20m (都市樹木 1 本当)



都市樹木: 樹高 18m・枝張 15m ※クスノキ他

ヒート削減とは、要は葉っぱの数を減らさないことである

剪定をしない管理の構築

交差点

街路樹

計画: 人と樹木のスケール対比

現在: 人と樹木のスケール対比

このスケールでは都市環境への貢献困難

■ [方針] 樹木の生育を優先した都市樹木を配置 ■

● 生かす緑

● 見つめる緑

・枝は切らない、葉は減らさない。 ・樹木を見て生命を感じ、葉を見て憩う。

■ [具体策] 植栽地は樹高・枝張 10mを確保 ■

- ① 樹木の生長に見合った植栽地の確保 幅 2mの植栽帯は都市のスケールには不合理
- ② 都市樹木景観士による生育管理 一庭園や公園の樹木とは全く異なる視点が必要
- ③ 都市樹木に関する新規手法確立のための研究

※体系化して以下のような整理をする

- 「都市樹木コミュニケーション学」—都市樹木との付き合い方、接し方、表情の見極め方、樹木と鳥
- 「都市樹木芸術学」—樹木モデル、描かれる樹木、樹木と黄金分割、樹景美絵画展
- 「都市樹木視覚学」—歩行者の視野、樹木と建物関係、空と樹木、ビル内景観
- 「都市気候効果学」—樹木存在の効果解析、風道と樹木、温度と樹木、舗装と樹木
- 「都市樹木快適学」—心理的効果、五感効果、樹木と店舗の集客者数
- 「都市樹木診断学」—都市樹木景観士による定期健診、樹木医と連携
- 「都市樹木管理学」—自然樹形保管術、交通車両関係、機械管理手法の開発、無剪定手法
- 「都市樹木施工学」—徹底した機械施工、樹冠形成手法、幹補修

その他 多数…

● 都市大阪は、此の位の樹木と付合うことを、建物・交通に関わるヒートから要求されています。

写真 クスノキ H15m W15m

